

訂正とお詫び

本誌のバック・ナンバーにおいて、下記の箇所に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
(編集部)

2005年7月号

特集

p.144 右 6行目：OPアンプに入力できる電圧まで落として ホール素子に入力できる電圧(5V)まで落として(図7-1ではこの部分を省略している)

p.146 右 10行目：供給電圧は10Vです 供給電圧は最大10Vです

p.148 写真9-2のキャプション：フォトIC S4282-51の出力波形 LEDの駆動波形

p.149 写真10-1：正しくは右図のとおり

p.153 表1-1のキャプション：74ACや74LVCは比較的大きな電流を出力できる

p.169 左 6行目：リレーを使うと...小さくなります アナログ・スイッチと異なりリレーは原理的にひずみが発生しません

p.182 右 2行目：DCアンプと呼びます 削除。図1-1：平均値 V_{ave} は V_{CCA} (2.5V)の破線を指し示す

p.183 図1-5キャプション：センサ出力に直流ぶんが不要なときの増幅回路

p.187 右 9行目：信号の周波数より十分 信号の周波数よりカットオフ周波数が十分

p.196 図3-2(b)の吹き出し：Aの直流電圧は V_{in} 。Bの直流電圧は0V。また、 V_{out} への矢尻をとる。左 5行目と2行目：ESL ESR

p.199 左 8行目： IN_1 (4番ピン)と IN_2 (13番ピン)端子 IN_+ と IN_- 。図7-2：吹き出し「0~0.4Vであること」の二つの矢尻はエラー・アンプの+端子ではなく-端子を指す

SPICE 実用電子回路講座

p.231 左 18行目：OPアンプ回路の

ゲインは A_O から $1/$ に低減します。右 2行目：位相の比という 位相差という。右 4行目：位相比 位相差

p.232 図5-3キャプション： $A_O = 1$ 上の点が $1 + A_O < 1$ にあるとピークが出る。左 4行目：発振しない ピークが出ない。右 6行目：発振するかしないか ピークが出るか出ないか

p.234 図5-6：入力信号 - 入力端子 高速A-D変換のしくみと活用

p.252 写真2-1キャプション：2.5THzの信号も観測できる 2.5 THz相当の時間分解能で表示できる

